

令和2年度 3学期終業式

2022.03.24

おはようございます。令和3年度が本日で終わります。終業式にあたり今年度を簡単に振り返りたいと思います。

今年度当初、安来高校が進むべき道しるべとしてグランドデザインを策定し、生徒のみならずをはじめ、PTA や同窓会の皆様にも、会合や会誌など様々な場面で発信し、2月に発足した安来高校魅力化コンソーシアムでも承認していただきました。生徒昇降口に掲示してあります。また、今年度の「糺」の表紙にも印刷してもらっています。その中で安来高校3年間で身につけて欲しい力として10個の力を掲げています。教育目標の「きびしく 高く 美しく」に結び付けて

- ・きびしく；自分と向き合う力として当事者意識、自己研鑽力、自己調整力、見通しを持つ力の4つ
- ・高く；課題と向き合う力として、学びに向かう力、課題発見解決力、発信力の3つ
- ・美しく；他者と向き合う力として、自己理解・肯定力、他者理解・肯定力、協働する力の3つ

の併せて10個の力です。この1年間でどのくらい身についたでしょうか。

これらの力は授業等の学習活動だけでつけるのではなく、学校行事・生徒会活動・部活動などあらゆる場面を通して身につくものと考えます。これから一生付き合っていく自分の顔(FACE)である自我の基盤を築くために、それぞれの場面で、感じること(Feel)、身に着けること(Acquire)、考えること(Consider)、表現すること(Express)、という活動を通して身につけ深めていって欲しいと思っています。そして、各学期末毎にループリックで、1学期末、2学期末、学年末と自分自身がどのように進化したか自己評価してもらっています。

このループリックでの評価は、あくまでも他人と比べるのではなく、以前の自分と比べてどうかという自分の中の評価です。ここまでできるようになったとか、1学期の自分より、こういうことができるようになったという視点で、自分の成長を評価してみてください。他人と比べても仕方ありません。以前の自分より少し成長を感じられること、そしてその少しの積み重ねが大きな成長になるものと思います。「過去と他人は変えられない、変えられるのは自分と未来だ」青空応援団の平団長の言葉です。過去の出来事を愚痴ったり、他人と比べて勝っているとか劣っているとか一喜一憂するのではなく、自分の未来をより良いものにするように日々の自分の生活をどう改善していくのかという視点を持って、様々なことに取り組んで欲しいと思います。来たるべき新年度に向けて、プチ改善を計画・実行し1年後には少しでも成長した自分と出会い、充実した未来と出会えるように心がけて欲しいと思います。

今年度もコロナで様々な制限を強いられた1年でした。しかし、できないからとあきらめるのではなく、置かれた状況でどうすればできるのか、何ができるのか、工夫を重ねてきました。この経験はこれからの人生で様々な壁にぶつかった時に、試行錯誤して最適解を見つけるための貴重な体験になると思います。

今日の新聞にもありましたが、明日から今月いっぱい部活動も原則停止となります。なぜそうするのか目的をよく考えて、4月1日からの普通の学校生活のスタートに向けて「きびしく 高く 美しく」の行動を期待しています。

始業式では全員が元気な姿で登校し、翌日には新たな仲間をみんなで迎えることができるよう充実した春休みにしましょう。

安来高等学校

校長 柳樂 眞悟